

# 地域新MaaS創出推進事業について

令和6年3月18日

経済産業省 製造産業局自動車課

# 経産省「地域新MaaS創出推進事業」について

- 経産省においては、移動課題の解決や地域経済の活性化につながる新たなモビリティサービスについて、①毎年10件程度の先進事例の実証支援を行うとともに、②全国各地におけるシンポジウムの開催等を通じた事例の横展開を図る取組、を推進中。

## 【R5年度の事業概要】

### <①先進事例の実証支援> 三重県大台町・度会町

- 大台町の診療所において、医療MaaSの人的・運行コストの削減に向けた新たな車両・搭載機器の実証実験を実施。
- 度会町においては、町内の公民館等に、各種サービス機能を備えた車両等を集めて一時的なサービス拠点を形成する実証実験を実施。

#### ①移動サービス×医療(医療MaaSの更なる深化)

【Before】



#### ②移動サービス×地域サービス拠点(中山間地域の移動課題解消)

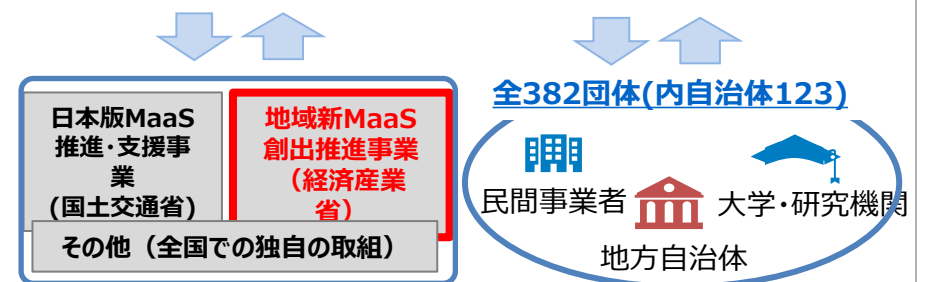
公共施設等を中心とした地域拠点



### <②横展開> スマートモビリティチャレンジ推進協議会

- 地域と企業の協働による意欲的な挑戦を促す「スマートモビリティチャレンジ」プロジェクトを開始。会員数は382団体。
- MaaSに関する情報発信や会員同士のマッチング、シンポジウム開催などの地域・企業等の連携強化を促進する取組を実施。今年度は、9つの地方局でシンポジウムを開催。

「スマートモビリティチャレンジ推進協議会」



# 5年間の取組を通じた教訓

- 過去5年間で全国85地域の取組を推進。その取組を通じて見えてきた教訓は、以下2点。
  - ① 構想⇒実証⇒実装という各フェーズにおいて直面する課題は異なること
  - ② 実証事例は積み上がる一方、各課題への取組の知見が体系的・具体的に整理されておらず、「具体的な検討の手順や粒度が分からない」という自治体や事業者の悩みが多いこと
- こうした教訓を踏まえ、過去の実証知見を基に、「新たに取組を始める地域が、自力で一定水準の検討を行える状態を作る」ための知見集として、スマートモビリティの取組類型や具体的な検討手順・検討粒度を整理して示した、「スマートモビリティの創り方—みんなのガイドブック」を今年度新たに策定。翌年度以降の随時更新。

## 【「スマートモビリティの創り方—みんなのガイドブック」について】

- 今年度新たに策定（24年2月28日「RoAD to the L4プロジェクト&スマートモビリティチャレンジ成果報告会」にて発表、その後HP公開）。
- 読者は広く一般向けを想定しつつ、メインのターゲットは、地方自治体や事業者の方々。
- 過去5年間の実証事例を通じた知見を体系的に整理するとともに、各組織内での検討・調整の際に活用可能な実践形式のワークシートも整備。

### ①「知る」編

- 「スマートモビリティ」という難解な概念を体系化し、どのような施策メニューが考えられるのか、どのようにメニューを選んでいくべきかを例示

スマートモビリティの全体像 — 施策アイテム集

「スマートモビリティ」とは、AI・IoT・ビッグデータ等の技術を活用し、交通手段・サービス・インフラを統合的に提供することで、移動の効率化・利便性の向上を図ることを目指す。本ガイドブックでは、スマートモビリティの概要やサービス・インフラの種類、導入のメリット・デメリット、導入のステップなどをわかりやすく解説し、自治体や事業者がスマートモビリティの導入を検討する際の参考にすることを目的とする。

### ②「創る」編

- 構想や実証計画の策定で押さえるべきポイントや先行事例を解説するとともに、検討手順に沿って、実際の検討時に活用できるワークシートを掲載
- このほか「スマートモビリティの健康増進効果」など、研究知見もコラムとして掲載

WORK SHEET

① 効果目標

② 実施計画

③ 効果検証

④ 効果検証

⑤ 効果検証

⑥ 効果検証

⑦ 効果検証

⑧ 効果検証

⑨ 効果検証

⑩ 効果検証

⑪ 効果検証

⑫ 効果検証

⑬ 効果検証

⑭ 効果検証

⑮ 効果検証

⑯ 効果検証

⑰ 効果検証

⑱ 効果検証

⑲ 効果検証

⑳ 効果検証

㉑ 効果検証

㉒ 効果検証

㉓ 効果検証

㉔ 効果検証

㉕ 効果検証

㉖ 効果検証

㉗ 効果検証

㉘ 効果検証

㉙ 効果検証

㉚ 効果検証

㉛ 効果検証

㉜ 効果検証

㉝ 効果検証

㉞ 効果検証

㉟ 効果検証

㊱ 効果検証

㊲ 効果検証

㊳ 効果検証

㊴ 効果検証

㊵ 効果検証

㊶ 効果検証

㊷ 効果検証

㊸ 効果検証

㊹ 効果検証

㊺ 効果検証

㊻ 効果検証

㊼ 効果検証

㊽ 効果検証

㊾ 効果検証

㊿ 効果検証

主な内容  
(約80ページ)

# 来年度の事業概要について

- 地域新MaaS創出推進事業は、**3,000万円程度 × 4件程度の採択**とし、R5年度と同等のスケジュール（4月上旬公募開始）を進める方針。

## 全体テーマ

モビリティを活用した新たなビジネスモデルの実証

## 目的

将来的な技術の進歩も見据え、新たなモビリティサービスの導入や異業種連携、データ利活用等の取組により、モビリティ関連産業の裾野拡大、競争力強化に繋がる新たなビジネスモデルを創出すること

## 公募対象

以下のいずれか、もしくは複数の成果が期待される取組

- ① 将来的な自動運転の普及も見据えたサービス・ビジネスモデルを実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること  
※自動運転に関しては、「将来的な自動運転の活用を見据えたビジネスモデル」の検証が主であり、自動運転車両の運行費は本事業の委託費の対象外（＝自動運転の技術実証は対象外）
- ② 法規制等の課題によりこれまで具体化が進んでこなかったサービス・ビジネスモデルを実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること  
（モビリティ×医療、観光、小売、物流、エネルギー、データ等）
- ③ 自動車完成車メーカーや部品メーカー、ディーラーなどの新たなビジネス機会を創出する取組を実証し、想定される効果や乗り越えるべき課題を整理すること
- ④ その他、モビリティ関連産業の裾野拡大、競争力強化に貢献する新たなビジネスモデルを創出すること

## 採択 案件数 ・金額

- 3,000万円 程度 × 4件 程度

# (参考) 今年度策定した「ガイドブック」の活用促進

- 今年度新たに策定したガイドブック (p. 3) について、各自治体・事業者の皆さまにしっかりと御活用いただくことが重要。そうした観点から、R6年度の経産省事業において、本ガイドブックに掲載するワークシートの活用を検討することで、本ガイドブックの参照・活用を促していく。

## 【ガイドブックのワークシートの活用】

- 「スマートモビリティの創り方ーみんなのガイドブックー」には、各組織内での検討・調整の際に活用可能な実践形式のワークシートも掲載。
- これらを経産省事業への申請において活用いただくことを予定。
- ワークシートの例
  - ・ 左図が、実証における体制構築をする際に活用
  - ・ 右図が、実証事業の効果目標を設定する際に活用

SmartMobility Challenge

### WORK SHEET

STEP2 「地道な声掛けで輪を広げる」段階に入ったら、みなさんの体制で必要な役割を満たしているか、書き出してみましょう。不足している部分については、追加で誰を巻き込むべきか検討しましょう。

【ワークシート記入例】  
コミュニティバスの代わりにデマンドバスを運行し、地域の商業施設や病院の送迎バスと連携することを検討している  
〇〇市交通企画課 × × さん 記入のワークシート

求められる役割	いま参画している主体	巻き込みたい主体
④ 地域の実情を踏まえて 構想づくりを主導する	〇〇市交通企画課 × ×	
⑤ 利用者のニーズ把握を主導する	〇〇市交通企画課 × ×	
⑥ 専門的な知識からアドバイスする	× × コンサルティング 〇〇 さん	〇〇大学 × × 先生
① 地域内外で取組への共感を広める	〇〇市交通企画課 × × △△自治会長 〇〇 さん	
② 実証や実装の計画作りを主導し、必要なリソースを確保する	〇〇市交通企画課 × × × × コンサルティング 〇〇 さん	
③ 実証や実装時の事業主体となる	〇〇市交通企画課	
⑦ モビリティを運行する	△△タクシー株式会社	
車両や技術・システムを提供する		構想の内容に応じて、必要な役割 (⑦) は追加しましょう
⑧ ・オンデマンドバス車両	〇〇自動車株式会社	
・予約用の Web サイト / アプリ	〇〇システム株式会社	
連携サービスを提供する		
① ・商業クーポン連携	〇〇ストア	
・施設送迎サービス	- (未定)	〇〇病院
④ 利用者とのコミュニケーションを主導する	〇〇市交通企画課 × × △△自治会長 〇〇 さん	
⑤ データを収集・分析し、PDCA サイクルを目指す	〇〇システム株式会社	

35 体制の整備 — 巻き込む人の役割 28

### WORK SHEET

## ②効果目標

「なぜ」を深掘りし、「KGI:効果目標」→「KPI:評価指標」→「検証方法」の順で整理しましょう。

check

□ 効果目標  
□ ワークシート

【ワークシート記入例】  
コミュニティバスの代わりにデマンドバスを運行し、地域の商業施設や病院の送迎バスと連携することを検討している〇〇市交通企画課 × × さん 記入のワークシート

解決したい交通課題

- ・高齢者でも気軽に利用できるドア to ドアの交通を整備する。
- ・その際に、既存交通手段と比べて収支率を維持・向上させる。

「これを達成すれば実現できる、予算をつけられる」という条件を設定します

KGI (効果目標)

- ① 高齢者の公共交通利用および外出頻度の増加
  - ・高齢者の免許返納率: 〇〇%
  - ・高齢者の外出頻度: 202X年調査と比べ +〇日/月
- ② 公共交通の収支率の維持・向上
  - ・収入: 〇万円/年以上
  - ・費用: 〇万円/年以下

KPI (評価指標)

- ・デマンドバスの利用者数: 〇人/日
- ・デマンドバスの利用満足度: コミュニティバスと比べ +〇%
- ・.....
- ・運賃収入: 〇万円/月以上
- ・協賛会収入: 〇万円/月以上
- ・運行台数: 〇台以下
- ・予約受付・管理コスト: 〇万円/月以下
- ・.....

検証方法

必要データ

- ・利用者数: 日別・時間帯別利用回数 (合計、利用者 ID 別)
- ・.....
- ・予約受付・管理コスト: オペレーター必要人数 × 人件費 + アプリ初期開発費 + アプリ運用費
- ・.....

データ取得方法

- ・利用者数: アプリの予約履歴と、電話窓口の予約履歴をエクセルで実査
- ・.....
- ・予約受付・管理コスト: 利用人数の推計も踏まえて、△△タクシーと〇〇システムから、実施時の想定見積もりを依頼
- ・.....

ここで立てた KPI が、実証実験の KPI につながります。

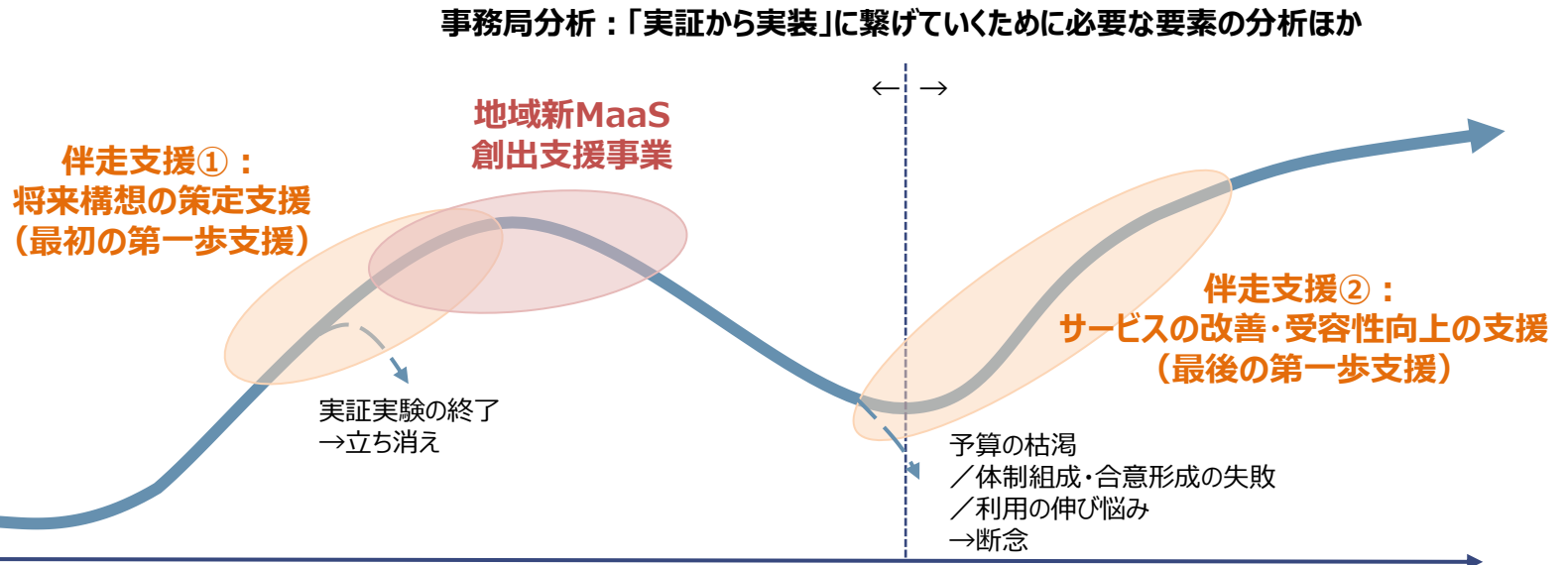
35 構想の具体化 — 効果目標

# ハンズオン型の伴走支援の新規実施

- 加えて、スマートモビリティチャレンジ推進協議会活動について、実証事業に対する費用面の直接的な後押しのみならず、将来構想の策定やサービスの改善・受容性向上といった、最初の構想段階や最後の実装段階における人的な支援ニーズの声も上がっており、新たに協議会事務局によるハンズオン型の伴走支援を行う。



受容性・事業性・  
体制構築



# (参考) 協議会会員に対する伴走支援活動

- これから構想づくりに取り組む地域や、実証段階で伸び悩む地域を対象として、過去の知見を活かした伴走支援を実施する。

支援内容	①将来構想の策定～実証実験計画作成	②実証実験における利用者ニーズ分析・実証計画改善
支援の目的・ゴール	数年以内に実証実験を行いたいと考えているものの具体的な構想が定まっていない地域について、サービス内容や効果目標、想定ユーザーといった具体的な構想や実証実験計画が完成している状態を目指す	過去に実証実験を行い、利用者数不足に直面した地域について、利用者とのコミュニケーションを深める施策や、その内容を踏まえた実証実験計画の修正を通じて、効果検証等を十分に行える状態を目指す
具体的な支援方法	定例会議（隔週程度） 検討に用いるワークシート等の提供、記載におけるアドバイス（議論への参画、過去事例の紹介など） その他、地域での実施・検討事項に対するアドバイス	ワークショップ・インタビューの企画・運営・取りまとめ支援 上記内容を踏まえた実証実験計画の修正に関するアドバイス（利用者ニーズを踏まえたサービスの改善点など） その他、地域での実施・検討事項に対するアドバイス
対象地域	スマートモビリティの取組を進めたいと考えているが、具体的な構想が定まっていない地域	過去3年以内にスマートモビリティ関連の実証実験を行った経験があり、かつ本年度実証実験を行う予定がある地域 ※経済産業省「地域新MaaS創出推進事業」に限らない
採択数	5～6地域程度	2～3地域程度